

## 第2回農産品物流対策関係省庁連絡会議 議事概要

○日時 平成29年1月26日

○場所 農林水産省6F食料産業局第1・2会議室

○出席者

農林水産省食料産業局食品流通課長、生産局園芸流通加工対策室長、経営局協同組織課長、政策統括官穀物課長、経済産業省商務流通保安グループ物流企画室長、国土交通省総合政策局物流政策課長、自動車局貨物課長、全国農業協同組合連合会、全国中央市場青果卸売協会、東京青果株式会社、東京多摩青果株式会社、全国青果卸売市場協会、熊本大同青果株式会社、全国青果卸売協同組合連合会、有限会社三秀、全国米穀販売事業共済協同組合、日本物流団体連合会、全日本トラック協会、新日本スーパーマーケット協会、株式会社エムスクエア・ラボ、株式会社アークス、シーオス株式会社、日本パレットレンタル株式会社

○議事

＜業界団体・民間企業からのヒアリング＞

○新日本スーパーマーケット協会

- ・ 天気予報を正確かつ中長期的に予測することを日本気象協会と取り組んでおり、AIを使うことも研究。
- ・ 最近、青果物の相場高により全体の業績が上昇。安定供給・価格安定は大きな課題であるが、産地による地域文化の提案の仕方によって付加価値が付き、生産者の収入を増やすヒントとなるのではないかと。

○株式会社アークス

- ・ モーダルシフトの推進により、輸送コスト、CO2の削減を実現。道内の直接契約農家に対し、当社のモーダルシフトを紹介することで生産者の大幅な物流コスト削減にも貢献。
- ・ 青果の物流センターでは、1日3便体制で入荷時間をずらし入出庫効率を向上。市場・生産者からの集荷や店舗からの発泡スチロール、瓶缶等の回収に、物流センターから店舗への配送車の帰り便を活用している。また、トラックの積載率は、容積ベースで85%前後。
- ・ 通い箱を使えば、ダンボール代がかからず、トラックへの積載も効率的で、莫大なコストダウンができる。加えて、アメリカの青果のような3～4桁の共通番号での管理ができれば効率化につながる。

- ・ 3 PL 物流については、リードタイム、納品時間、ロット等に関する要望等について、運送業者と直接しっかり話をすることでお互いのメリットを出しながらやっている。

#### ○全国農業協同組合連合会

- ・ ドライバーが不足するなか、大量のダンボールをドライバーが自ら積み下ろしており、体への負担、作業・待ち時間が発生。また、ドライバーの拘束時間が厳しくなったが、産地との力関係で運賃の値上げができない。この結果 1 回の運行あたり荷物を下ろせる場所の数が減少。
- ・ 産地としてもドライバーの労働環境改善のため、パレット一貫輸送を行いたい、レンタルパレットは、回収やコストの問題があるため、発泡スチロールのワンウェイパレットに取り組んでいるところ。
- ・ 九州からの輸送について、関西ストックポイントを設けて、そこから各地方に輸送することを検討中。何らかの支援・事業で 1 年間の実証実験ができれば、様々な課題が解決でき、スピードアップにつながる。
- ・ パレット代は産地が払うものだが、この結果、運送業者側では作業時間が大幅に短縮。パレット利用の運賃割引に関する取り決めを行政が示せば、産地も取り組みやすくなる。また、パレット 1 枚あたりいくらという支援を一定期間やれば、特に長距離輸送の運送業者には後押しとなる。
- ・ パレットの回収については、どこにどれだけ回収できないものがあるのかが不明であるため、GPS 付きレンタルパレットを活用して実態を究明し、回収率の向上のための課題解決に取り組みたい。

#### ○株式会社エムスクエア・ラボ

- ・ 生産者と購買者が直接取引し、それぞれバラバラに物流を手配するとコストが非常に高いため、共同配送網により集荷配送を行うことでコストを下げる取組みとして「やさいバス」を開始。
- ・ 小売店舗の駐車場、軒先などをバス停にして、農家からの出荷やレストラン・小口需要家の集荷の場所としてシェア。定時にバス停を廻る共同物流により間接コストを低減。バス停になることを希望する場所も多く、地域をつなぐものになりつつあると実感。
- ・ 地域内での小口の集荷・配送物流はエリアは小さいが、全国の各地域やコールドチェーン等が未発達のアジア諸国にも導入できる。これからデータもたまってくるので更に様々なサービスも展開できる。

### ○東京青果株式会社

- ・大田市場では年々入荷量が増加し、荷置き、荷さばき場が不足。冷蔵庫などの設備も不十分。場外物流、予約相対取引等による場外直接配送も行っているが、解決には至っていない。
- ・場内ではパレチゼーションを推奨。各農協にも推奨するために回収率向上の取り組みとして産地から着いたパレットは当社で全て積み替えており、今後、クランプフォークリフトの導入を検討。
- ・市場の置き場不足だけではなく、管理面での人手も不足しており、AIやIoTを使った物流管理のための支援が必要。

### ○東京多摩青果株式会社

- ・用地が狭いため、1階の卸売場から2階の荷さばき場へは、コンベアや垂直搬送機を使って立体の冷蔵自動倉庫を経由し、冷蔵管理された青果物をタイムリーに自動搬送。
- ・パレット輸送が物流の要。コンベアや自動倉庫への搬出入もパレット単位。流通している木製のものは強度に問題があり、これを大きめのプラスチックパレットにそのまま載せて使うことで積み替えの手間を軽減。
- ・青果市場では、当日販売のものを夜間に荷受けし早朝までの短時間で出荷するため、人手や物流機能がそこに集中。翌日以降に出荷ができるよう冷蔵倉庫を更に増設するための投資に対する支援が必要。
- ・パレットに積まれていれば短時間で荷受けできるが、トラックの荷台に直接積む“ベタ積み”だと荷受けに時間がかかり、市場にトラックが滞留する。産地に向けて行政からの指導が必要。

### ○熊本大同青果株式会社

- ・青果輸送は、時間・数量、行き先も不安定で、長距離の場合は労務管理が大変、という理由で嫌がられる。集荷を行う小規模の物流業者からは、余裕がないので早い時間帯で定時定量にして欲しいと言われる。
- ・相対取引が進んでおり、市場の販売数量に合わせて産地で積むことができれば、下ろす順番でそのまま配送できる。いったん全部ベタ置きして配送するのは全く無駄であり、ICTを使ってできないか。
- ・通常のパレットは、置くのにも膨大なスペースが必要で、流出やコストも問題もあるため、シートパレットに取り組むことを検討。

### ○有限会社三秀

- ・日本は、気候条件等により、青果物の生産が不安定であり、保存が短期であるため、世界でできる物流を日本でやろうとしても上手くいかない。
- ・場所がなく新規取引を断るケースもあり、コールドチェーン施設を整備する場所も限られるが、鮮度のよいものを届けることは我々の使命。物流意識の弾力化、効率化による物流コストの削減に取り組んでいきたい。
- ・仲卸としてもパレチゼーション化は進めて欲しい。パレット利用については様々な問題があるが、市場一体で解決していこうということであれば、我々も協力して是非取り組んでいきたい。

### ○全国米穀販売事業共済協同組合

- ・コメの流通の特徴、実態から、まずフレコンそれから一貫パレチゼーションに取り組んでもらうのがよいのではないか。一貫パレチゼーションの協力要請も行っており増えていけばよいが、フレコンにした方が早そうな気がする。
- ・フレコン流通の拡大のためには産地のところから詰める必要。一貫パレチゼーションに関しては、取組産地の拡大、サイズの検討、パレットの共通管理ができる仕組みの構築が必要。
- ・物流の関係は、川上、川下がお客さんとなり、なかなか変わらないため、行政サイドで音頭を取ることが重要。また、産業も跨がるため、調査などもあるとよい。さらに、コメ1俵という単位は流通実態としてないため、行政の統計をトン単位とするなど、単位を検討するのも一つの方法。

### ○日本パレットレンタル株式会社

- ・パレットレンタルは、産地がパレットを借り、受け取った市場等から返してもらう仕組み。輸送中の行き先変更、市場から他市場への転送等を追跡できておらず、市場から返してもらうことが難しいのが現状。
- ・昨年、産地と市場の間で、勉強会やルール作りなど様々な取組みを行い、回収率が93%と向上したが、5年で16万枚ほどのパレットが流出。取組みの継続とパレットの行き先をトレースできる仕組みの構築が必要。
- ・一貫パレチゼーションの推進には、継続的なルールの策定と普及のために利害関係を調整できる協議会の設置やパレットが流出しない仕組み作りと管理の簡素化に向けた実証実験、パレット本体、パレタイザー設備、回収に関する助成、管理に対する助成が必要。

### ○日本物流団体連合会

- ・海上リーファーコンテナは、本来モーダルシフトの輸送用であるが、これ以外に冷蔵倉庫としても使うことができ、様々なメリットがあるため、出し地・受け地のストックポイントとして簡易的に活用可能。
- ・出し地側では、キャベツやトマト農場、ぶどう園等で利用。受け地側では、大田市場等で使われており、中にプロセッシング機械等を設置することもできる。設置場所の移動やリースも可能で導入費用も安い。また個別に温度調整もでき、店舗単位等でも保管できる等のメリット。

### ○全日本トラック協会

- ・農産物輸送は、連続運転時間、一運行当たりの手待ち時間・荷役時間が長い。こうした実態を踏まえ、ドライバーの労働時間のルールを荷主である団体・企業への周知を実施。
- ・青果物は、生産量が不安定で配車が非効率、多品種少量・小ロット、傷みやすくきめ細かい配送が必要といった貨物特性、複数回の積み替え、IT化の遅れ、厳しい時間的制約、長距離で長時間労働といった流通特性に起因する課題がある。
- ・農産物に係るパイロット事業による個別の課題を解決やトラック運送業の取引条件の改善に関する荷主企業に向けた働きかけの要請を実施。
- ・IT化による運送業の共有化、産地から輸送先まで積み替えがいらぬ方式の推進、パレットや段ボールの規格統一による効率化についての支援、小売センターの納品時間に関する弾力的な運用・工夫が必要。

### ○シーオス株式会社

- ・トラックの待ち時間を削減するため、輸送業と倉庫業、荷主の接点であるトラックバスの積み荷予約プラットフォームを開発。ウェブ上のシステムであり、輸送業者、倉庫業者ともに低コストで導入・使用できる。
- ・荷受企業が所有する倉庫のバス数、荷下ろしの時間割り、開始・終了時間等を入力すれば、スマホ上の簡単な操作で、ドライバー、荷受企業の双方が到着バスごとに時間予約ができ、進捗状況にあわせて予約変更も可能。ルートや渋滞情報もリアルタイムに表示できる。

以上